OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	ごあいさつ
Author(s)	千代, 賢治
Citation	癌と人. 1999, 26, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/23853
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

ご あ い さ つ

理事長　千　代　賢　治*

皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は当財団の運営に対しまして，格別のご支援を賜り誠にありがとうございます。

さて，ここ数年停滞の続く日本経済をよそに，医学の世界では引き続きの日進月歩ぶりがうかがえ誠に頼もしく存じます。

しかしながら，その進歩の速さに社会がキャッチアップできていないことを実感させられることも事実です。

それが端的に現れているのが，年金問題と介護問題と言えましょう。

年金財政の破綻懸念など経済的問題，核家族化の進行が招く人口構造上の問題であり，いずれも医学の進歩がもたらした長寿化・高齢化だけが要因ではありません。そこには，少子化の進行という要因が大きく作用しています。しかし，医学の進歩により，長寿化のスピードが予想をはるかに上回ったことが問題の一端に存在することも否定できません。

そして，最近特にとりざたされているのが医療面における倫理の問題です。

安楽死，インフォームドコンセント，クローン，脳死，臓器移植…と医療倫理に関連する言葉を新聞，ニュースで見ない日はないと言っても過言ではありません。

とりわけ臓器移植手術の実施に際して，脳死の判定とプライバシー保護をめぐって大きな議論を呼んだことは記憶に新しいところかと思います。

このように考えていきますと，医学とはテクニカルな部分だけで意味を成すものではなく，受け入れる土壌，即ち国民一人一人が成熟し，法律面，行政面でも十分に制度化された社会があってはじめて生きてくるものだと痛感させられます。

ご高承のとおり，当財団は癌に関する学術助成を行なうとともに，癌に関する知識を一般に普及していくことも大きな目的としております。

一般社会に対して，癌知識の普及をはかりながら，更には社会が考えるべき問題を投げかけ続けていくことができれば幸いであります。

最後になりましたが，万人の健やかな健康の実現のため，今後とも皆様の力強いご支援とご協力を切にお願い申し上げ，ご挨拶とさせて頂きます。

---

* (財)大阪癌研究会理事長　　住友生命保険相互会社 相談役